※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3005

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	最新　数学Ｂ（数研出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用のノートを用意すること。ただ単に板書事項を写すだけでなく、問題を解いたとき、途中経過もできるだけ書くようにすること。
・答え合わせの際は、正しい答えを書くだけでなく、自分がどこでつまずいたかを分析すること。
・授業中、わからないことがあればその都度、教員に積極的に聞くようにすること。
・定期考査前は対策プリントを渡すので繰り返し練習をすること。

2　学習の到達目標

・数列，統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
・数学と社会生活の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関りについて認識を深め、様々な事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	確率分布や標本分布の性質に着目して母集団の傾向を推測し判断したり標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力や、日常の事象や社会の事象を数学化して問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間考査まで	数列とその和	数列 等差数列 等比数列 和の記号 いろいろな数列の和	a:数列の一般項から，各項を求めることができる。数列に関する用語，記号を適切に用いることができる。等差数列の公差，一般項などを理解している。等比数列の公比，一般項などを理解している。等比数列の和の公式を，適切に利用して数列の和が求められる。第 k 項を k の式で表して，初項から第 n 項までの和が求められる。和 S_n の利用では，初項の扱いに注意して一般項が求められる。階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。数学的帰納法を用いて，等式，不等式を証明できる。 b: 等差数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。自然数 n に関する命題の証明には，数学的帰納法が有効なことを理解している。 c: 数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。f(k+1)-f(k)を用	練習プリント 小テスト 定期考査	練習プリント 小テスト 定期考査	授業プリント 練習プリント 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			いる和の求め方に興味をもち，具体的な問題に活用しようとする。数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。			
前期期末考査まで	統計的な推測	確率変数と確率分布 確率変数の期待値 分散と標準偏差 二項分布 正規分布 母集団と標本 母平均の推定 母比率の推定	a：確率分布を計算式や分布表を用いて表すことができる。確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。二項分布に従う確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。標準正規分布表を用いて，標準正規分布に関する確率の計算ができる。正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。標準正規分布表を用いて，正規分布に関する確率の計算ができる。二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を，正規分布に従う確率分布で近似して求めることができる。信頼区間の考え方を用いて，母平均や母比率の推定ができる。 b：試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。確率変数の期待値，分散，標準偏差を用いて確率分布の特徴を考察することができる。二項分布に従う確率変数の期待値，分散，標準偏差の公式について，確率分布の定義から導出することができる。面積を利用した確率分布の表し方を理解している。正規分布の特徴を理解し，さまざまな視点からとらえられる。二項分布のグラフと正規分布曲線の関係を考察することができる。母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 c：確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさ	練習プリント 小テスト 定期考査	練習プリント 小テスト 定期考査	授業プリント 練習プリント 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			に気づき，確率分布について積極的に考察しようとする。確率変数 aX+b と確率変数 X のそれぞれの期待値，分散と標準偏差の関係について積極的に考察しようとする。確率P(m−σ≦X≦m+σ)を求めることができ，その結果を考察しようとする。母集団や標本の特徴を理解しようとする。無作為抽出の方法について関心をもち，調べてみようとする。母平均や母比率の推定に関心を示す。			
	数学と社会生活	偏差値 選挙における議席配分 回帰直線 回帰曲線	a: 変量 x と変量 y=ax+b の平均値，分散，標準偏差の関係を理解している。移動平均について理解し，これを求めることができ，折れ線グラフで表現することができる。回帰直線を表す方程式を求めることができ，それを用いて，観測していないデータを予測することができる。対数目盛を理解し，対数目盛を用いた散布図がかける。 b:最大剰余方式，アダムズ方式の特徴について考察することができる。調査したい目的に応じて移動平均をとる期間を調整する必要があることを理解している。散布図に表したデータを関数とみなして処理できることを理解している。2 つの変量の関係を関数で表すとき，回帰直線，回帰曲線のどちらが適しているかを散布図から判断できる。データの範囲が非常に大きい場合のグラフや図では対数目盛が有効であることを理解している。 c: 社会で用いられる数値や指標について興味・関心をもち，調べてみようとする。議席数の割り振り方について，他の方法がないか調べようとする。いくつかの定め	練習プリント 小テスト 定期考査	練習プリント 小テスト 定期考査	授業プリント 練習プリント 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			方がある移動平均，回帰直線，回帰曲線について，他の定め方を調べようとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度